



古代ロマンへ 夢広がる

悠久の歴史に想いを馳せ、 発掘現場に多くの人が訪れました



広報こが特別号
 2013年5月10日発行 ■発行元・古賀市役所 ■ホームページのアドレス <http://www.city.koga.fukuoka.jp/>
 ■編集・経営企画課広報係 〒811-3192 福岡県古賀市沢東一丁目1番1号 ☎(092)942-1111 (大代) FAX(092)942-3758 ■印刷・社会福祉法人 福岡コロニー



▲古墳時代後期の馬具一式が見つかった古賀市谷山北遺跡群で4月21日現地説明会が行われ、県内外から約800人が詰め掛けました(写真上)。現地説明会に展示されたパネルの解説を熱心に見入る来場者(写真下)

古賀市の持つ歴史や伝統の魅力を再発見し、まちづくりに生かしたいと考えていた矢先にこのような価値のあるものが発見され、たいへん喜ばしく思っています。谷山北地区遺跡群が、市民の皆さんに夢とロマンを与えるものとなり、市の観光振興の起爆剤になることを期待しています。



古賀市長
竹下司津男



古賀市教育長
荒木隆

全国的にも珍しい貴重な埋蔵文化財が発掘され、たいへん驚いています。今後は、各関係機関の指導と地元の協力を得ながら、慎重に発掘作業を行い、この地の歴史的背景が解明されることを期待しています。そして、古賀市のたいせつな財産として未来の子どもたちに伝承し、郷土の誇りを育みます。

古墳時代へタイムスリップ



平成25年3月、古賀市谷山のほ場整備に伴う谷山北地区遺跡群の発掘調査で、古墳時代後期（6世紀末から7世紀初め頃）の馬具一式が埋蔵された土坑が見つかりました。専門家からも「非常に貴重で重要な発見」と注目されています。まだまだ調査途中のため、今後、古代ロマンの謎が解き明かされていく予定です。

古賀市谷山の遺跡群 金銅製馬具一式発見

土坑の規模は、長さ5.2m、幅0.8m、推定の深さ0.7m。底一面に整然と当時の馬具類が納められていました。

現在までの主な出土品は鉄製壺鏡、鉄製輪鏡、金銅装飾の鞍、



轡の一部（金銅製の引手）、南海産イモガイで装飾した金銅製辻金具、金銅製雲珠、金銅製心葉（ハート）形杏葉、金銅製鈴などです。そのほか、多量の小型の鉄板が集中して出土しています。また、土坑内各所には黒い漆膜が多量に残されていました。

しかし、未調査の部分や、器種が特定できない不明鉄製品もまだ多く、全容はつかめていません。出土遺物の中で、金銅製引手は

これまで奈良県藤ノ木古墳（国宝）、福岡県宮地獄古墳（国宝）など全国で4例を数えるのみの貴重なもの。イモガイの装飾は朝鮮半島の新羅で流行したものとわれ、ここま

で残りがよいものはごく少なく、貴重な資料です。

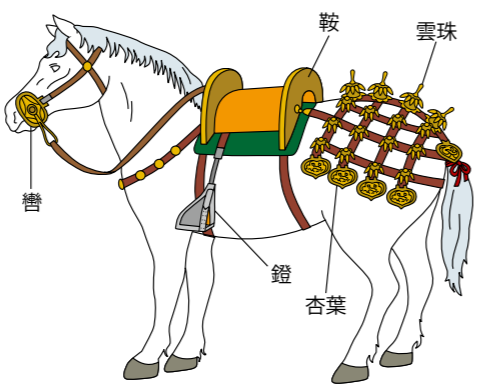
鉄板は人間のよろい（挂甲）に使用されるものによく似ており、馬具と考える場合、馬用のよろいやかぶと（馬冑、馬甲）の可能性がありますが、そうなれば全国で和歌山県大谷古墳のほか4例しかない貴重な出土例です。

鈴は少なくとも4点以上が出土。伊勢神宮遺品の、模型の馬が装着する豪華な馬具のうち、「八子」と呼ばれる皮製の帯の先に鈴を取り付けた装飾品のようなものでしょうか。鈴のない装飾革帯が藤ノ木古墳の馬具で復元されています。漆膜も想像をかきたてます。黒漆の箱に納めたものか、漆塗りの革や布に包んだものでしょうか。

今回の発見の重要な点は、①馬具が各種類そろったセットで出土し、さらに、金銅などで装飾された価値が高いものが多いこと②埋納当時の様子が見える状態であること③隣接する船原3号墳に関連すると思われることなどです。特に、古墳の石室内で副葬品として発見されるのではなく、古墳の外側であったことは、当時の葬送儀礼を知るうえで大変重要な発見です。

これらを手に入れた人物は、相当地位を得ていたと考えてよいでしょう。馬に関わる重要な職務を担った地域首長像や、朝鮮半島との交渉に携わった人物など想像うにしています。

その後、九州歴史資料館にて遺物の詳しい調査、復元作業などを行います。最新の調査技術で何が判明するのか、また復元された馬具はどのような輝きをまもって私たちの前に姿を現すのか。その日が楽しみです。



（参考＝九州国立博物館開館5周年特別展「馬」）



▲イモガイで装飾した金銅製辻金具と引手

用語解説

◆馬具＝乗馬のために用いる用具全般を指す言葉。馬を操るための轡、人が乗る鞍、足を乗せる鏡及びこれらを取り付けるための装具（紐、帯、金具類）と雲珠、杏葉といった装飾品からなる。

◆繫＝馬具を馬に装着するための革帯や金具類の総称。装着する馬の部分によって、頭部の面繫、胸部の胸繫、下半身の尻繫などと呼び分ける。

◆鏡＝騎乗者の足掛けとする乗馬補助具。

◆鞍＝騎乗者の座席。前後に鞍橋といわれる半円の部品を取り付けるが、前部を前輪、後部を後輪と呼ぶ。

◆轡＝馬にかませる棒状のもので、鏡板の両端に手綱を取り付ける。馬をコントロールするための最も重要な馬具。

◆辻金具＝馬具を馬に連結する紐や皮帯の交差する位置に取り付ける飾り金具。半球状で、皮帯を取り付ける脚部が外側の四方に付く。

◆雲珠＝馬の背中を飾る金具。革帯が交差する位置に取り付ける。形状は辻金具に近いが脚部は5個以上取り付けられる。

◆杏葉＝馬具に下げる装飾品。心葉（ハート）形、剣菱形等さまざまな形状がある

◆馬冑＝馬の頭部を保護するためのかぶと。（参考＝「最新日本考古学用語辞典」大塚初重・戸沢充則編）